

## 試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：業務用イボ無しキュウリの周年生産における品種と整枝方法の選定			
<p>[要約] 業務用イボ無しキュウリの適品種は、5月定植6～8月収穫の作型及び抑制作型では「フリーダムハウス1号」、促成作型では「フリーダムハウス1号」及び「フリーダムハウス3号」である。業務用キュウリに適した整枝方法は、各作型とも摘心整枝であるが、抑制作型では主枝・側枝の2本仕立て、促成作型ではつる下ろし整枝も良い。</p>			
フリーワート <sup>®</sup> キュウリ、業務用、イボ無し、品種、整枝方法			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・北総園芸研究所・砂地野菜研究室 協力機関 海匠農林振興センター、JAちばみどり		
実施期間	2007年度～2008年度		

### [目的及び背景]

近年、加工・業務用野菜の需要増加は著しく、本県においても実需者ニーズに対応する低コスト・良品・安定供給体制の構築が早急に求められている。そこで、本県産野菜の主要な品目の一つであるキュウリについて、コンビニ等業務用に適したイボ無しキュウリの周年安定生産のため、作型別適品種と整枝方法の選定を行う。

### [成果内容]

- 1 業務用キュウリとして求められている特性は、洗浄が容易なイボ無しで、長さが青果用の標準的な大きさ（110gで21～22cm）に近いものである（データ省略）。
- 2 5月定植6～8月収穫の作型及び抑制作型の適品種は、収量性に優れ、うどんこ病の発生が少ない「フリーダムハウス1号」である。促成作型の適品種は、収量性に優れる「フリーダムハウス1号」及び果実長の長い「フリーダムハウス3号」である（表1）。
- 3 フリーダム各品種は草勢が強いので、整枝方法は各作型とも収量性及び作業性の良い摘心整枝（主枝20節・側枝1節または2節摘心）が適する。

ただし、抑制作型では主枝・側枝の2本仕立て、促成作型ではつる下ろし整枝（下位4本誘引）も収量性に優れ適用できる（表2）。

### [留意事項]

#### [普及対象地域]

県内全域のキュウリ栽培地域

#### [行政上の措置]

#### [普及状況]

海匠地域の生産者8戸でイボ無しキュウリを生産

#### [成果の概要]

表1 作型別適品種の選定

作型	品種	平成19年度					平成20年度								
		総収量		110g換算果実長		うどんこ病 発病率 (%)	総合 評価	総収量		110g換算果実長		うどんこ病 発病率 (%)	総合 評価		
		(t/10a)	評価	(cm)	評価			(t/10a)	評価	(cm)	評価				
5月定植、 6～8月収 穫	フリーダムハウス1号	12.3	◎	20.3		2	◎	◎	10.0	◎	20.9	○	8	◎	◎
	フリーダムハウス2号	11.6	○	20.7		0	◎	○	9.4	○	22.4	○	8	◎	
	フリーダムハウス3号	11.7	○	20.1		0	◎	○	8.9	○	21.3	○	5	◎	
	ポリッシ	11.2	○	20.7		90			8.2		21.4	○	64		
	大将(対照)	10.2		23.0		65			8.4		24.2		59		
抑制 (8月定 植、9～11 月収穫)	フリーダムハウス1号	9.0	○	20.9	○	1	◎	○	8.7	○	19.7		6	◎	◎
	フリーダムハウス2号	8.6	○	20.8	○	0	◎	○	7.6		20.4		17	○	
	フリーダムハウス3号	7.8		20.4		0	◎		7.9		19.1		15	○	
	ポリッシ	7.7		20.2		61			9.4	○	20.0		63		
	大将(対照)	8.1		21.3		71			7.9		21.9		59		
促成 (10月定 植、11～5 月収穫)	フリーダムハウス1号	18.6	○	21.0	○	0	◎	○	15.5	○	19.4		0	◎	○
	フリーダムハウス2号	18.1	○	20.4		1	◎		14.6	○	20.0		0	◎	
	フリーダムハウス3号	16.1		22.1	○	0	◎	○	14.2		20.9	○	0	◎	○
	ポリッシ	18.9	○	21.4	○	15		○	12.8		18.7		44		
	ハイグリーン21(対照)	17.5		22.8		19			14.1		22.1		86		

注) 評価は、◎：対照より大いに優る、○：対照より優る、但し果実長のみ○：21～22cm程度。  
うどんこ病以外の褐斑病及びびと病は差がなかった。  
110g換算果実長(cm) = 平均果実長(cm) / 平均果実重(g) × 110(g)  
果実は1果重110g、果実長21～22cmが最も望まれる

表2 作型別整枝方法の選定

作型	整枝方法	平成19年度					平成20年度						
		総収量		110g換算果実長		総合 評価	総収量		110g換算果実長		作業量調査		総合 評価
		(t/10a)	評価	(cm)	評価		(t/10a)	評価	(cm)	評価	茎葉摘除 個数(/区)	評価	
5月定植、 6～8月収 穫	摘心20-1	11.7		20.1			8.1		20.6		135	○	
	摘心20-2	12.3	○	21.3	○	○	8.9	○	21.3	○	166	○	○
	摘心15-1	10.1		20.6			-	-	-	-	-	-	-
	つる下4	8.8		21.3	○	-	7.7		22.0	○	688		
	主側2	-	-	-	-	-	8.7		22.4		191	○	
抑制 (8月定 植、9～11 月収穫)	摘心20-1	7.8		20.4			7.8		20.4		854	○	○
	摘心20-2	9.3	○	20.9	○	○	7.9		19.1		1,070		
	つる下4	-	-	-	-	-	5.9		19.2		1,860		
	つる上4	7.3		20.3			-	-	-	-	-	-	-
	折衷	7.7		20.5			-	-	-	-	-	-	-
促成 (10月定 植、11～5 月収穫)	主側2	-	-	-	-	-	8.4	○	19.0		1,110		○
	摘心20-1	18.2	○	22.4	○	○	14.0	○	19.2		2,010	○	○
	つる下4	16.1		22.1	○		14.2	○	20.9	○	2,450		○
	つる下3	16.4		20.8	○		-	-	-	-	-	-	-
	つる上4	15.3		21.0	○		13.7		20.2		2,540		
折衷	-	-	-	-	-	13.8		19.9		2,500			

注) 評価は試験区間の相対評価、○：良、空欄：差がないまたは劣る。但し果実長のみ○：21～22cm程度。  
-は試験無し。  
整枝方法は、  
摘心20-1：主枝20節・側枝1節摘心、 摘心20-2：主枝20節・側枝2節摘心、  
摘心15-1：主枝15節・側枝1節摘心、 つる下4：つる下ろし・下位4本誘引、  
つる下3：つる下ろし・下位3本誘引、 つる上4：つる下ろし・上位4本誘引、  
折衷：初期摘心・後半つる下ろし、 主側2：主枝+側枝1本を摘心整枝  
110g換算果実長(cm) = 平均果実長(cm) / 平均果実重(g) × 110(g)  
果実は1果重110g、果実長21～22cmが最も望まれる  
作業量調査：整枝作業量を摘除した茎葉の個数(切り数)で比較、数値が小さいほど作業量少ない

[発表及び関連文献]

- 1 公開講座 加工・業務用野菜生産の最前線 平成21年8月6日
- 2 平成21年度試験研究成果発表会(野菜部門1)

[その他]